

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

墓碑銘、藤井信さんに

信高山岳会とは極めて古いお付き合いのある藤井信さんが逝去された。新潟県の栃尾高校に長く勤務され、新潟県山岳協会の会長もなさった藤井さんは、信高山岳会初代会長の勝野順さんの提案した青海信越山荘に共感し、伊澤利幸さんとともに3人の発起人のお一人として名を連ね長野と新潟そして青海省を繋いだキーマンだった。

1988年信高山岳会は、高校生訪中登山交流会を発足し、高校生を中国へ連れて行った。その後、天安門事件の影響で一年中断したが、四川で4回、青海で2回と合わせて6回の訪中登山を実現させた。それを新潟でも広げたいと、藤井さんは青海省とのつながりを太くし、1994年には新潟県の高校生の訪中登山隊を組織し、野牛山の頂上へ導いた。そこで培った人的なつながりが長野、新潟の有志の寄付金による青海信越山荘として結実し、95年に完成の運びとなったわけだ。当の山荘が青海省側の事情により、現在は使えなくなってしまったのは甚だ残念だが、この事業を通じて培った「高校生に夢を」の精神は僕にとっては高校山岳部の指導の原点となっている。

2000年に僕が新疆セリッククラムムスターグに遠征したとき、ちょうど藤井さんも新疆ハミのトムルティ峰に遠征しており、ウルムチで互いの健闘を祈り合ったのも昨日のこことようだ。藤井さんに最後にお会いしたのは、2007年5月。信高山岳会の例会山行で山形の鳥海山、月山で山スキーを楽しんだ帰り、松田さん、高橋さん、田中さんとともに新潟市のお宅に立ち寄らせていただいた。すでに酸素ボンベを離せなくなっていた藤井さんだったが、ご自慢のいろりでイワナを焼いてくださり、美味そうに酒を飲んでおられた姿、また帰りにはお土産にと皆に一升ずつお酒を下さり、名残惜しそうにされていた姿は今でも目に焼き付いている。直接お会いしたのは、結局それが最後になってしまったが、その後電話でお話するたびに、新潟県山岳協会と青海省登山協会が友好協定を結ぶ関係にありながら、青海信越山荘が使えなくなってしまったことに対し、藤井さんは強く責任を感じ後悔の念をもっており「もともとこの話を立ち上げた長野の皆さんに何の相談もなく多くの迷惑をかけてしまうことになってしまい、申し訳ない」と言われていたのが今でも深く心に残っている。僕のような若輩者にも温かく接して下さり、見守っていただいた。藤井さんのご逝去を悼み心よりご冥福をお祈り申し上げます。

中信高校山岳部年報2013

今年で37号となる2013年版の「中信高校山岳部年報」(B5判129ページ:中信地区8校の山岳部活動報告を掲載)が完成した。以下、編集担当者として、編集後記より一部抜粋して掲載し、紹介に変えたい。もしご希望の方がいましたら、一部1000円でお頒けしますので、大西までご連絡ください。紹介文にも書きましたが、今年度退職される予定の松田大さんがインターハイ出場25回の回顧録を特別寄稿されており、読み応えがあります……。



以下編集後記より・・・さて、今年度は何といても松本県ヶ丘高校男子のインターハイ準優勝、また女子の北信越での優秀校表彰のことを抜きには語れない一年となりました。特に前者については、小生自身が目の前で活躍する選手たちの様子を見、表彰式にも居合わせる中で目頭が熱くなる経験をさせていただきました。今年で退職される松田さんの花道を飾るにふさわしい生徒たちの活躍に大きな拍手を送りたいと思います。また、トピックスでもとりあげましたが、国体におけるチーム長野【少年：京谷（大町）、西脇（蟻ヶ崎）、成年：笠原（大町出）中嶋（深志出）今滝（監督、大町北）】の中信勢の活躍にも同様の拍手を送ります。

一方で、白馬高校、木曽青峰高校の活動が休止してしまったのは残念でしたが、昨年度から活動を始めた豊科高校の充実した活動や松本蟻ヶ崎の復活は嬉しい限りです。各校の活動報告に、じっくりと目を通して、来年度以降の活動へのステップにしてください。顧問寄稿としては、先に触れた松田大先生から、インターハイ出場 25 回というご自身の山岳部顧問としてのご経験をしたためていただきました。松本蟻ヶ崎高校、大町高校、松本県ヶ丘高校の顧問としての長年のご労苦に敬意を表し、味わいながら読んでいただきたいと思います。

長山協セミナーのお誘い

長野県山岳協会事業部では、研修会などを通じ会員の資質向上に努めるという趣旨のもと、毎年「山のセミナー」を開いています。今年も下記の内容で行います。登山だけではなく山の魅力に触れてみませんか？協会会員はもちろんのこと、どなたでも参加できます。奮ってご参加ください。詳しくは長野県山岳協会のHP

<http://www.nmaj.org/branch/zigyoubu/2013/002.htm> をご覧ください。

日時：2014年 2月 2日（日） 9：30～15:40 場所：長野県山岳総合センター 参加費：500 円

内容 ・体験活動としてのジュニア登山教室 長山協ジュニア委員長 傘木靖氏

・低体温症・凍傷・外傷（怪我）、現場で何ができるか 国際山岳医 日本山岳ガイド協会 千島康稔氏

・ペルーアンデスの魅力 富山県山岳連盟 上田 幸雄 氏

・ライチョウの生息域内保全―乗鞍岳で実施された孵化後家族のケージ保護の取組 東邦大学 小林篤氏

編集子のひとりごと

風邪ひきで始まった2014年だが、1月6日には池工生徒と新春日帰り山行で、12月にも登った戸谷峰に登った。冬型が強まって北アルプスが吹かれているときでも、松本は晴天率が高いので、結構快適な山歩きを楽しめる。今年の1年生は、雪の中をものともせず、むしろそれを楽しめる頼もしい生徒たちである。生徒4人と新雪をふみながらの里山ハイクを楽しんだ。また12日の日曜日には、乗鞍高原の善五郎の滝にアイスクライミングに行ってきた。標高が高く冷え込みの厳しい信州だからこそこの時期限定のお楽しみ。1月号の岳人に紹介されたこともあってだろう、僕らの他にも県外から3パーティがやってきて氷瀑にとりついていた。このところの冷え込みでしっかり凍っていた。アイスクライミングは道具が8割、一緒に行った友人とギアを交換していろいろなアックスを試してみるとその差は歴然、道具の進化に恐れ入る。アイスクライミングに山スキー、冬のお楽しみはあまたあれど、いずれも懐具合が気になります。生徒にはちょっと敷居が高いかな・・・。（大西 記）